

越知山・吉野山・高野山の信仰の根源

越知山大谷寺は太陽と日輪の施津

泰澄大師（682 767）
たいちようたいし

泰澄大師は、奈良吉野山の三大蔵王権現をお祀りしていた役小角が流罪と成った頃に、越知山で修行していた人で御座居ます。吉野山の基の祀りが消されてしまうのを見かねて、三大蔵王権現の写しを、福井県上吉野山にお祀りされました。そして、越知山を太陽界・宇宙産迂迦津・生命界地球の3ヶ所を三所権現で感得されました。現在は向かって右尊（聖観音菩薩）・中尊（十一面観世音菩薩）・左尊（阿弥陀如来）で変えて祀っています。そして、泰澄大師は、宇宙産十三示元津の一示元津太陽と二示元津日輪を除く、三示元津から十三示元津の十一示元津を、十一面千手観音菩薩で現しました。その御姿は、人祖「初代」の両手を胸で合掌した伊邪那岐尊（父）、両手の指を丹の前で組み合わせた伊邪那身命（母）、そして、お二人の間にお生まれに成られたお子の数を手で現され、左に女子十九臂、右に男子十九臂、合計三十八臂を付けて、伊邪那岐家十九組の夫婦が人類の基である事を感じ得られました。

奈良県吉野山は宇宙産迂迦の丹生丹生魂遺伝子の施津

役小角 六九九年五月二十四日伊豆島に流罪となる
えんのおすめ

大丹生童児が吉野山の山頂、創根ヶ峯に三つの霊石を並べ、植物・動物・人間が三位一体で生命界が成り立っている事を感じ得られたお祀りを、丹生家十八家が二十年毎丹生家の交替をもつて守り続けていました。役小角が三大蔵王権現を感じ得してお守りする当番をしていた時は、天武天皇の時代で、古事記・日本書紀の編纂により、天橋立・真名井原丹庭を、九州の高千穂に天下った瓊瓊杵尊 にするためには、吉野山の元の祀りが邪魔になり、役小角は島流しとなり追放されてしまいました。その後、蔵王堂の中に三大蔵王権現の祀り方を、向かって左尊（弥勒菩薩）・中尊（釈迦如来）・右尊（千手観音菩薩）に変えて今日に到っています。

桜本坊には、役小角が感得したといれる聖天さまを秘佛として、毎年九月三十日の二十四時を過ぎると同時に、一年に一度のご開帳を今日も続けています。

和歌山の高野山は、生命界地球の世界

弘法大師774 835・小栗栖の常暁867年1月9日没おぐりす じょうせいの

小栗栖の常暁は、太元帥明王像を秋篠寺の井戸にみて、その姿を法衣に写しとめ、人祖「初代」の御姿である事を感得され、天皇家の御本自佛として正月八日から十四日まで宮中で行われていました。

弘法大師は植物の元生産親・動物の元生産親・人間の元生産親を、真言密教として三大太元帥明王と感得されました。その太元帥明王を天皇家の御本自佛として、孝明天皇まで宮中でお祀りされていましたが、孝明天皇は暗殺される事を予感され、次期天皇は偽り天皇であると察知して、その天皇に渡す事が許されず、現在の京都にあります東寺に移されて、毎年正月後七日、元日から七日までは神祀り、八日から十四日まででは佛教の行事として、勅使をお迎えされて行っています。昭和の初め頃までは、秋篠寺の井戸水を汲み、お召し列車に乗せて東寺まで運び、お祀りをされていました。今は意味が解らなくなり、行事を続けるか否かとなっている現在の事です。宗教の根本が解らなくなっている事が、現在の世相となっているのです。其れを解決するには、この三ヶ所の佛教の大御所、越知山（三体）の大谷寺住職・吉野山（三体）の桜本坊住職・高野山（三体）の座主が同席して総ての宗教の元の根源は九の神仕組みであり、日本国憲法第九条が神佛そのものであり、宇宙産生命界の仕組みであることを悟り語り合います。御難賛助の御誓約の精神を以って、今、一刻も早く今上天皇の大御意志を以って、日本武尊が民草和氣の剣を納められた熱田神宮の元宮、名古屋市緑区大高町日神山内、尾張族が伊勢生成の神をお祀りした地に、全世界の戦争殉難者の御霊処として、世界平和神宮院と、日本国憲法第九条の生み親、昭和天皇を竝宮として、昭和神宮建設を以って、日本憲法九条を日本から全世界の九条へ普遍なし、世界恒久平和の実現と成る事を祈願申しあげます。

合 掌

平成十八年十一月一日

〒 四七四 〇〇五六

愛知県大府市明成町一丁目一七五

〇五六二 四四 〇七〇八

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市